

桜蔭俳話会 四月句会 (第三四四回)

平成二十八年四月二十四日(日)

会場 旭区民文化センター(サンハート)

- 3点①メロン食む苦き言葉を呑み込んで 幸
- 2点②蜜蜂へ湿原の空明け渡す 守
- 2点②企業戦士の今は育翁のどかなり 友子
- 2点①飛花落花活断層の上に生く 守
- 2点 特急の停らぬホームよなぐもり 守
- 2点 鳥帰る眼大きな関羽帝 幸
- 2点 ホテルニューグランド旧館窓若葉 朋子
- 2点 蘆芽組むくちばしの赤見え隠れ 朋子
- 2点 二階バス窓に青葉の街展け 幸
- 2点 風化とは時間の可視化甘茶仏 守
- 2点 ひと月の赤子へやさし春の風 友子
- 2点 春嶺に支援のバターオスプレイ 明美
- 2点 おぼろ夜の一村動きみな瓦礫 明美
- 2点 砂場より子の声消えし飛花落花 守
- 2点 潰さるる家の赤紙リラの冷え 明美
- 1点①桜散り圭角の人旅立ちぬ 眞壽
- 1点①たんぽぽ踏むなしあわせが逃げてゆく 才美
- 1点 古寺の裏に香れる藤白し 友子
- 1点 渾身の競艇選手春を切る かおる
- 1点 重たげに小手毬の花風に浮く かおる
- 1点 ダンボール置かばベッドに春寒し 明美
- 1点 深海の魚の光れるみどり風 才美
- 1点 純潔や若葉重なる九品仏 かおる
- 1点 母のぬぬ今年の桜沁みにけり 友子
- 1点 夕長し港の灯りそめてより 朋子
- 1点 この辺りむかし花街杉菜の芽 才美
- 1点 鬼ごっこたけのこ前線走り行く ツル子

※ 俄雨満開の桜一人占め

- 子供の日見上げるほどの背比べ ツル子 眞壽
- 通信吏の墓の若葉や対馬の地 幸 ツル子
- 幾万の花びらチョコレート三粒 才美
- 時告げるメロディ悲しハマの春 ヤエ子
- 君とだけ肩並べ行く桜道 眞壽
- 思わずに老鶯の声まねてみる ツル子
- 囀りや鳥語の研究進みをり 友子

老いてなほ体しなやか踊子草 ヤエ子  
 風の来て喋るかのごと楠若葉 ヤエ子  
 この池に茶店百年花あふち 朋子  
 樟若葉深井に星の降り込める 才美  
 春雷や地面ゆるがす絶え間なき ツル子  
 千鳥なす若木の桜肌美人 眞壽  
 ペンペン草ゆらぎし音の聞こえをり 眞壽

春風や二万歩完歩杖二本 かおる  
 小綬鶏瞬時獲物に水しぶき 幸  
 古民家のお玉杓子帰真園 かおる  
 春風に乗つてゆらりゆら鳩の群れ ヤエ子  
 舞殿ののこる城跡弥生尽 朋子  
 春の地震戦争のごと一波二波 明美  
 目借時本落つ音の夢の醒め ヤエ子  
 枝伸びて水面に映ゆる桜花 眞壽  
 (不在投句 古野明美、松浦かおる)

「事務局からお知らせ」

○第一二一回通信句会作品募集  
 春の季語を用いた三句。締切りは五月十日(火)。  
 同封の葉書でお送りください。

○五月句会は、五月二十二日(日)、鎌倉で吟行と  
 なります。詳細は同封のお知らせをご  
 覧ください。

○六月句会  
 ・日時 六月二十六日(日)午後一時から。  
 ・会場 旭区民文化センター(サンハート)

○七月句会  
 ・日時 七月二十四日(日)午後一時から。  
 ・会場 旭区民文化センター(サンハート)